

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 12月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175800358		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	ほのかの里		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80番地 電話：0123-72-0762		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年12月10日	評価確定日	平成20年12月23日

【情報提供票より】 (平成20年 11月 26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年7月15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	29 人 常勤 5人, 非常勤 24人, 常勤換算 11人

### (2) 建物概要

建物構造	木造鋼板葺き 造り
	1階建ての 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費：12,000円 暖房費(12~3)：5,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

### (4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.3 歳	最低 79 歳	最高 100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗山赤十字病院・あらい歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ほのかの里」は、栗山公園近くの自然豊かな住宅地に建てられたグループホームで、芝生の庭や東屋を利用して近隣住民との交流が積極的に行われている。運営者は、訪問介護の仕事に携わっていた時に自宅介護の相談を受けた事をきっかけに、一般住宅改造型のグループホームを開設したが、利用者の身体状況の変化や社会情勢の変化を契機に、現在の場所に平屋造りのホームを新たに開設した。職員は、利用者一人ひとりの思いを大切に、感謝の気持ちを持ちながら個々に合わせた対応を心がけ、日々温かいケアに取り組んでいる。利用者は、広々とした居間で職員と楽しく会話を交わしながら、明るい笑顔で生活を楽しんでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目：外部4)
	契約書の欠落項目は改善されている。前回課題となっていた集団生活から離れたくつろぐ場所の確保、応急手当の講習、マニュアル作成、事故報告書やヒヤリハット記録など書類整備は殆ど取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目：外部4)
	今回の自己評価は、一部の職員の意見を聞きながら役職者が中心となってまとめた。作成後全職員が閲覧しているが、職員は項目毎の理解はまだ不十分であり、自己評価も十分に活かされていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目：外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族代表、地域代表、役場福祉係長、法人役員、管理者が参加して年2回開催され、各ホームの状況報告、行事やホーム内視察についてなどが議題として取り上げられ、意見交換が行われている。地域住民の代表が参加することで、行事への近隣住民の参加や手伝いが積極的に行われ、地域との関わりも深められている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目：外部7, 8)
	職員は家族の意見や不満は貴重な資源と考えており、家族の思いを出来るだけ汲み取り、運営に反映させて行きたいと考えている。利用者の近況や、行事の様子を記入した便りを毎月個別に作成して家族に郵送している。家族の来訪時には、利用者の様子を話したり、利用者の体調変化のたびに電話を入れるなど家族が安心できる様に配慮している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目：外部3)
	地域の町内会に加入して、町内のお祭りに参加したり、事業所の夏祭りやクリスマス会などの行事に地域の人々が手伝いに来てくれるなど、地域住民との深い関わり合いが出来ている。保育園児が遊びに来て一緒にゲームをしたり、高校生や専門学校の生徒がボランティアで行事の手伝いに来るなど、利用者が地域の人々と交流する機会が多く持たれている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「ゆったりと楽しく」「自由に、ありのままに」「暮らしの喜びと自信を」という理念を掲げている。利用者、職員共に地域と関わりながら生活しているが、理念の中に地域密着はまだ明記されていない。	○	現在行われている地域との関わりを、理念に明文化するように職員全員で話し合い、運営推進会議での議題として取り上げるなど、事業所独自の理念を作成するよう、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間に、理念を掲示している。職員は、理念を理解して日々のケアに取り組んでいる意識はあるが、具体的に理念について取り上げて職員間で話し合ったりする機会はあまり持たれていない。	○	運営理念を全職員で作成する事により、より一層職員間で理念を共有し、日々のケアに役立てて行くよう、期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会に加入し、町内のお祭りに参加したり、事業所の夏祭りやクリスマス会などの行事に地域の人々が手伝いに来てくれるなど、地域住民との深い関わり合いが出来ている。保育園児が遊びに来たり、高校生や専門学校の生徒が行事の手伝いに来るなど利用者と交流する機会は多い。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、一部の職員の意見を聞きながら役職者が中心となってまとめ上げて作成している。作成後、職員全員が閲覧して確認している。管理者は、自己評価をする事により、事業所としてまだ不十分な所や、利用者との関わりについて反省する事など、日々のケアを振り返る良い契機になったと捉えている。	○	今回の自己評価は、役職者と一部の職員で行われたため、全職員が評価内容を理解するに至っていないので、今後は、項目毎に理解を深めて日々のケアに行かずと共に、次回の評価は全職員で取り組むよう、期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族代表、地域代表、役場福祉課長、法人役員、管理者が参加し年2回開催し、事業所の状況報告や行事について話し合いが行われている。	○	運営推進会議の議題を含めた年間計画を作成し、より一層内容の充実した会議が定期的開催されるよう、期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の職員が、運営推進会議に参加するなど、役場の方から事業所に訪問する機会も多く持たれている。また総合施設長などの役職者が常に役場を訪問する事により、町役場との連携を深め、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者個別の近況や、行事の様子を記入した便りを毎月作成し、金銭出納帳のコピーと共に家族に郵送している。家族の来訪時には、利用者の様子を話したり、来訪の少ない家族には、利用者の体調変化のたびに電話を入れ、家族が安心できるように配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、意見箱等は設置されていない。今まで苦情等は特に出されていないが、職員は家族の意見や不満は貴重な資源と考えており、家族の思いを出るだけ汲み取り、運営に反映させて行きたいと考えている。	○	家族の来訪時などに積極的に話しかけたり、家族から意見や苦情を聞き出すより良い方法を今後も考えて行くよう、期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を考え、法人内での完全な異動は行われていないが、数カ所の事業所を行き来して勤務する事はある。退職時は、利用者へ報告している。退職により利用者が不穏になった時は、ゲームや散歩などで気分転換する事で不穏は解消されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加の機会は少ないが、技術力の向上を目指して、経験に応じた受講が出来るように配慮している。外部研修参加後は、他の職員に資料提供と研修内容の報告を行う機会を設け、全職員が情報を共有出来るように配慮している。新人職員は、先輩職員と半月程一緒に業務を行う実地研修を行い、利用者との関係を築いて行くように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	民間介護協議会に加入し、年間1～2回程度一般職員も参加して情報交換などの交流会が行われている。職員は、他の事業所の情報を得る事により、サービスの向上を目指して日々のケアに役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族や可能な限り本人に来訪してもらい、利用者と一緒にお茶を飲んで貰う機会などを作り、事業所の生活に親しんで貰えるような工夫をしている。新しい入居者に対しては、寄り添ってゆっくり話を聞く事により、世間話の中から生活歴や思いを汲み取るように配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、煮物や調味料の入れる順番を教えて貰ったり、茶碗拭き、花の水やり、縫い物などを一緒にする事で感謝の気持ちを伝えている。畑の収穫物の皮むきを一緒にやり終えた時や、一緒に作った料理が美味しかった時など利用者と一緒に喜ぶ合うなど、お互いに学んだり支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とは、自分の思いを言ってくれる関係作りが出来ているので、現在は意向の把握は難しい状況には至っていない。思いがなかなか伝えられない利用者の場合は、ゆっくり話を聞く事により、話の中からそれぞれの思いを汲み取りように配慮している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者は本人・家族の意向を入れ、職員の情報や医療情報を参考にして計画書を作成している。全職員に目を通してもらい家族にも提示し、意見があれば訂正確認印を貰っている。計画書は来訪時に説明しているが遠方の家族には数ヶ月後に確認することもある。	○	計画書は現状に即した内容なので、来訪が難しい家族には電話で説明後、郵送などで確認して貰うような工夫が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員からの情報も参考にして介護計画作成者はモニタリングを実施し、3ヶ月ごとに見直している。モニタリング表では目標達成度を確認し、それを次の計画に反映させている。また、入退院などで状態の変化がある場合は実情に合ったものに作り直し家族に提示している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、通院の送迎を行っている。また、点滴が必要な利用者には入院しないでホームの生活が続けられるように、毎日のように送迎し通院介助を支援した例もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していた「かかりつけ医」の治療が継続できるように配慮している。多くの利用者は町の総合病院で受診をしており、また、他のかかりつけ医への受診も含め、家族の事情に応じて通院介助を行い、それぞれの主治医と連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の契約を交わす際に、重度化に伴う対応を口頭で説明し、本人・家族に了解を得ている。看取りでは、治療が終了した段階で、終末期をホームで過ごさせたい家族の意向があり、再度、対応を話し合い看取りを行った事例もある。徐々に状態が変わった時点で方針を再確認している。	○	重度化や看取りの方針を入居時に口頭で説明をしているので、ホームの方針を書類にして、明確な方針で共有していくことを期待したい。また、看取りの事例もあるので、その体験を生かし職員の看取り教育にも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しさの中にも礼儀を保ち、名前の呼び方や言葉遣いに注意し、排泄の声かけは他者に聞こえないように配慮している。記録は他者から見えない所で書き、書類は職員室に保管している。面会時はメモ用紙に来客名を書いてもらうか、職員がノートに記入し個人情報に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れがあり、朝食後、ラジオ体操、散歩、レクリエーション等を行い、午後は入浴や遊びの時間を作り、花札、計算、塗り絵など、数人での個別な活動を楽しんでのんびりと過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れて総合施設長が作成している。できる人は野菜切りなどの食事準備を手伝い、食後は食器を下げ・洗い・拭き・戸棚に片づけるなど、職員と一緒にしている。六角形テーブルの中央にみかんを盛り、職員、利用者間で談笑しながら食卓を囲み、明るく家庭的な雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き、午後2時～4時頃までに入浴できる態勢になっている。希望に応じて週2回実施しているが、入浴を拒否する利用者には強制しないで、数日間の内には入れるように工夫している。また、異性介助を嫌がる場合は職員を代えて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備や縫物も手伝ってくれる。ホームの畑で野菜を育て、収穫を楽しんでいる。ユニット間の交流、また、敷地内にある法人の他グループホームとも交流し、ホーム前の「東屋」に集まり、皆で歌い、会話をするのが最高の気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように隣のホームや周囲の住宅の花壇を見て回り、ホームの裏側の桜や紅葉の自然を堪能している。近くにスーパーがあり買い物も楽しんでいる。冬場は出かけることが少ないので外の行事以外にもドライブに出かける時もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	7時～20時ごろまでは、玄関に鍵を掛けず、内側のドアに鈴をつけ、出入りに注意している。周囲は安全な環境であるが、外に出た時は職員がそっと見守り利用者の行きたい所に同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し連絡網も整備してある。年2回、法人事業所の合同訓練で消防署の協力の下、通報、消火器の使い方などを習い利用者も参加し避難訓練を行っている。	○	今後は近隣の協力も得られるように、運営推進会議の議題に載せ、夜間を想定した訓練も視野入れた体制作りを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の内容は、法人の管理栄養士に確認してもらい、栄養バランスに沿った食事を提供している。全員の食事量、水分量は記録にとっていないが、状態の変化、食事量が少ないなど、必要な場合には記録して把握し共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の間にはテレビを中心に重厚なソファをコの字型に広々と配置し、団欒ができる工夫も見られる。そこで、塗り絵、計算、字の練習など個別の作業をして会話を楽しんでいる。利用者と職員が一緒に作ったクリスマスのちぎり絵や昨年6月に天皇皇后両陛下の栗山視察時、利用者も浴道で出迎えた記念写真も展示してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し、本人を中心に数人で撮った写真を表札代わりにし部屋が分かるように工夫している。居室には小テーブル、テレビ、家具類を持ち込み、家族の写真、仏壇、置き物、化粧品などを並べ、その人らしい部屋作りになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。